

令和3年度使用教科用図書選定のための資料

学校教育法附則第9条教科用図書（一般図書）

岩手県教育委員会

令和3年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(見本)理由書一覧

1 図書名

No.	出版社	書名	該当教科	障がい種	学部・学年等
1	岩崎書店	えのぐあそび	図画工作	知的障がい	小学部5年
2	絵本館	かずのえほん123	算数	肢体不自由	小学部3年 (重複学級)
3	学研	でんしゃ・のりもの あいうえお	国語	知的障がい	小学部4年
4	学研プラス	しましまぐるぐる	図画工作	肢体不自由	小学部3年 (重複学級)
5	学研プラス	0さい~4さい こどもずかん	外国語	肢体不自由	中学部1年 (重複学級)
6	小学館	いろがみえるのは どうして?	図画工作	聴覚障がい	小学部5年 (重複学級)
7	小学館	こんがらがっち でんしゃでおでかけビンゴの本	算数	肢体不自由	小学部2年 (重複学級)
8	世界文化社	ポッキーのびっくりピクニック	生活	視覚障がい	小学部2年 (重複学級)
9	童心社	かずのほん3 0から10までのたしざんひきざん	算数	知的障がい	小学部2年
10	永岡書店	きいてうたって24曲どうよううたのえほん	音楽	病弱	小学部5年 (重複学級)
11	日本図書センター	おやくそくえほん はじめての「よのなかルールブック」	生活	知的障がい	小学部5年
12	パイインターナショナル	はじめてのなぜなにふしぎえほん	生活	知的障がい	小学部6年
13	パイインターナショナル	はじめてのてんきえほん	理科	病弱	中学部2年 (重複学級)
14	白泉社	1日10分でちずをおぼえる絵本改訂版	社会	肢体不自由	中学部1年 (重複学級)
15	ひかりのくに	つつつつー なぞってたどってゆびあそぶっく	国語	視覚障がい	小学部1年 (重複学級)
16	ひさかたチャイルド	絵で見てわかる 単位とはかりかた	数学	聴覚障がい	中学部1年 (重複学級)
17	ブロンズ新社	やっぱり・しごとば	職業・家庭	聴覚障がい	中学部2年 (重複学級)
18	ポプラ社	旅でみる 世の中のしくみ大図鑑	社会	聴覚障がい	中学部3年 (重複学級)
19	ほるぷ出版	ころりん123	算数	知的障がい	小学部2年
20	福音館書店	さくらがさくと	生活	知的障がい	小学部6年

2 一般図書選定の理由書(次頁)

一般図書選定の理由書

番号	1
----	---

学校名 _____

担当者名 _____

図書名	えのぐあそび		発行者名	岩崎書店	
図書の内容	<p>本書は、絵の具を使った楽しい描き方を紹介している。筆、指、ヘラ、刷毛、スポンジ、ストロー、きりふき等身近にあるものを利用した描き方を学習することができる。</p> <p>材料や手順が、シンプルな絵を添えて分かりやすく示されており、児童が見通しをもって制作活動に取り組むことができる。</p>				
対象学年	小学部5年	障がい種別	知的障がい	該当教科	図画工作
選定の理由	児童生徒の実態	<p>本児童は、知的発達に5歳程度の児童である。色や形の名前が分かり、絵を描いたり、色を塗ったりする学習に意欲的である。</p> <p>本書を活用することで、水で薄めて形状や色の濃さに変化が生まれる絵の具の性質に気付き、興味をもって、制作活動に取り組むことが期待できる。また、絵の具の溶き具合に応じて、筆、指、ヘラ、刷毛、スポンジ、ストロー、きりふき等の様々な道具が使えることや、色を混ぜると新しい色を作ることができることを学習し、創造力を働かせ、表現の幅を広げていくことが期待できる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) 絵の具の学習に必要な道具（水、バケツ、筆等）の名前と使い方を確認する。</p> <p>(2) 絵の具の色とマッチングしながら、色の名前を復唱する。</p> <p>(3) それぞれのページで紹介されているやり方を見ながら、絵の具を出したり、混ぜたり、筆で線を書いたり、吹き付けたり、染めたりしながら絵の具に親しむ。</p> <p>(4) 自分で考えた新しい色や描きたいものに合わせた色を作る。</p> <p>(5) 描きたいものに合わせて、自分で方法を選んで描く。</p> <p>(6) (3)～(5)を繰り返す、自分で色を作ったり、道具を工夫したりしながら描く。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	2
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	かずのえほん 1 2 3		発 行 者 名	絵本館	
図 書 の 内 容	<p>本書は、47ページからなり、くまさんがうさぎさんたちの家に遊びに行き帰るまでに、自然と数に親しめる物語である。</p> <p>「にんじんにほん」や「はちけんめ」など、数え方にも注目することができる。また、ひとりに〇こずつ分ける場面や、数のゲーム場面があり、実際に取り組むことで数学的活動の楽しさを実感しながら、日常生活に生かすことのできる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部3年(重複学級)	障がい種別	肢体不自由	該当教科	算数
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、肢体不自由に知的障がいを併せ有している。知的発達は、3歳程度である。日常生活では、車椅子を使用しており、生活全般に支援が必要である。</p> <p>給食では、デザートの一いちごの数を数えながら配膳する様子が見られるようになり、数に関心をもち始めたところである。そこで、本書を活用して、日常生活の中にある数に目を向け、数え方を考えたり、表現したりすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 教師による読み聞かせを聞く。</p> <p>(2) ページごとに出てくるものの数え方を確認する。</p> <p>(3) 学級の友達と一緒に物を分けたり配ったりする活動を行う。</p> <p>(4) 本書で紹介されている数のゲームを行う。</p> <p>(5) 日常生活の中にある数を探す。</p> <p>(6) (5)については、算数の時間の導入で、「学校にある数さがし」を継続的に行い、具体物を数えたり、数の大小を比べたりする。</p> <p>(7) 数えられるようになったものなど、できるようになったことを発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	3
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	でんしゃ・のりもの あいうえお		発 行 者 名	学研	
図 書 の 内 容	<p>本書は平仮名50音が学べる図書であり、電車や乗り物の写真が100点以上掲載されている。迷路遊びのように楽しくなぞることができる工夫がされており、子どもたちが自分からどんだんなぞりを進めていくことが期待できる。図鑑のように情報も盛りだくさんであり、乗り物の名前を覚えることで、文字の習得にもつなげることが期待できる。</p>				
対 象 学 年	小学部4年	障がい種別	知的障がい	該当教科	国語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が5歳程度の知的障がいの児童である。平仮名の自分の名前が分かり、時間割や給食の献立など、身の回りの文字への関心も高まってきている。また、電車やバスなど、乗り物が大好きで、乗り物を扱った絵本を好む傾向がある。</p> <p>本書は、児童の大好きな電車などの乗り物がたくさん掲載されており、興味をもって自分から文字の学習に取り組むことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自由に本書を見て、楽しむ。</p> <p>(2) 知っている乗り物を指差しながら、教師に名前を伝えたり、知らない乗り物の名前を教師に聞いたりして知識を広げる。</p> <p>(3) 自分の名前にある文字を探して、書き順のとおりになぞる。</p> <p>(4) 好きな乗り物の名前にある文字を探して、書き順のとおりになぞる。</p> <p>(5) 一人でページをめくり、順番になぞる。</p> <p>(6) 教師が作成した乗り物の名前プリントに挑戦し、最後に綴じて、自分の「のりもの図鑑」を完成させる。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	4
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	しましま ぐるぐる		発 行 者 名	学研プラス	
図 書 の 内 容	<p>本書は、黒、白、赤といったコントラストの強い配色の線や形で描かれており、「見る」ことが苦手な児童でも注目したくなる図書である。 また、見るだけでなく、縞の模様などを指でたどりながら楽しむことができる。</p>				
対 象 学 年	小学部3年(重複学級)	障がい種別	肢体不自由	該当教科	図画工作
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、自立活動を主とする教育課程で学習しており、日常生活は、全般に支援が必要である。家族や教師など身近な人の声や、音楽が聞こえると、その方向に顔を動かそうとする姿がみられる。絵本の読み聞かせでは、絵を見て楽しむより、教師の声を聞いて楽しむ様子がみられる。 このコントラストがはっきりとした本書を提示することにより、注目しながら読み聞かせを楽しんだり、縞や円の模様にも興味をもったりすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 教師による読み聞かせを聞く。 (2) 反応がよかった模様を中心に、教師と一緒に指でたどる。 (3) 穴の開いているところがあることに気付くように模様をたどる。 (4) 教師の読み聞かせと一緒に合わせて模様をたどる。 (5) 本書にある模様を描いてみる。 (6) 友達と一緒に作品を見合う。 (7) 児童が注目した色の組み合わせや模様を用いて、教材を準備し、制作活動を行う。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	5
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	0さい～4さい こどもずかん		発 行 者 名	学研プラス	
図 書 の 内 容	<p>本書は、動物、果物、野菜、乗り物など、日常生活で見たり聞いたりする物を名前やイラストで紹介している。名前は日本語と英語で表記されており、日本語と英語の違いに気付くことができる。また、英語表記の下には、発音しやすいように強く読むアクセントの部分は大きく太く表記されており、外国語への関心を高め、親しみやすい図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年(重複学級)	障がい種別	肢体不自由	該当教科	外国語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、肢体不自由と知的障がいを併せ有しており、知的発達は4歳程度である。脳性まひによる両下肢機能障がいがあり、車椅子で生活をしている。文字やイラストに注目できるようになってきており、また、聞いた言葉を真似て声を出そうとする様子がみられる。</p> <p>本書を教師と一緒に、声に出しながら読んだり、イラストを見たりすることで、外国語に親しむことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 教師と一緒に本書を見る。 (2) 好きなものを探し、指差しや声を出して伝える。 (3) 教師読んだ英語を真似て声を出す。 (4) 教師が読んだ英語を聞いて答えのイラストカードを取る。 (5) 給食時に果物や野菜などについて英語で話すなど、日常的に外国語にふれ、親しみをもつ。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	6
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図書名	いろがみえるのは どうして？		発行者名	小学館	
図書の内容	<p>本書は、色が目に見える仕組みをイラストで分かりやすく説明している。「色が見えるのはなぜか？光があるからである」「光から色がどのように生まれるのか？」「空はどうして青いのか？」「海の色は、場所によって違うのはどうしてなのか？」など、身近な生活から、色に関心をもつことができる内容となっている。全体的に色彩豊かで、様々な技法が使われて着色されており、「こんなふうに描いてみたい」と思わせる、絵を描く上でも参考になる図書である。</p>				
対象学年	小学部5年(重複学級)	障がい種別	聴覚障がい	該当教科	図画工作
選定の理由	児童生徒の実態	<p>本児童は、聴覚障がいがあり、聴力が左右とも 90dB で、知的発達が7歳程度の児童である。補聴器をつけた状態で、大人がゆっくり大きな声ではっきり話す言葉が聞き取れる。一部声掛けが必要であるが、身辺自立が確立してきており、日程に沿って学校生活を送ることができるようになってきた。</p> <p>絵を描く際は、決まった色を選ぶことが多く、色を科学的な視点から追求し、色彩豊かで様々な技法を取り入れた本書を活用することで、色への関心や創作活動への意欲の高まりが期待できる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) 本書を自由に読み、様々な色合いや模様を楽しむ。</p> <p>(2) 見開き2ページずつに、どんな色が使われているか確認する。</p> <p>(3) 好きなページとその理由を発表し合う。</p> <p>(4) 本書から描いてみたい場面を選び、絵の具で色を作ったり、技法を工夫したりしながら描く。</p> <p>(5) 自分が描きたい題材について、本書の色合いや技法を参考にしながら描く。</p> <p>(6) 年間をとおして、本書を、作品を作る際の構図や色合い、技法選択時の資料の一つとする。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	7
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	こんがらがっち でんしゃでおでかけビンゴの本		発 行 者 名	小学館	
図 書 の 内 容	<p>本書は、各ページにあるチェックマークを、付属のビンゴカードでチェックしながら、楽しく読み進めることができる図書である。</p> <p>また、読み進める中で、選択する場面がある。その選択によって、できるビンゴの数が変わり、何度も繰り返し楽しむことができる。ビンゴカードを活用することで、縦、横、斜めなど、方向や位置関係を理解したり、後いくつでビンゴになるのかを考えたりすることができる。</p>				
対 象 学 年	小学部2年(重複学級)	障がい種別	肢体不自由	該当教科	算数
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、脳室周囲白質軟化症による両下肢機能障がいと知的障がいを併せ有している。1～3までの数字を読んだり書いたりすることができる。また、半具体物を使って、3までの数を表すことができる。しかし、形を捉えることが難しい。</p> <p>本書を活用して、ビンゴというゲームを取り入れながら、5までの数や位置関係を理解することが期待できる。また、ルールが分かりやすく、本児童も楽しみながら学習をすることが期待できる。さらに、指先を使って、ビンゴカードのオレンジの窓を開閉するなど、手指機能を高めることにもつながると考える。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) おでかけビンゴの遊び方の確認をする。</p> <p>(2) カードのオレンジの窓の開閉を練習したり、ビンゴカードの内容を確認したりする。</p> <p>(3) 縦、横、斜めの方向を確認する。</p> <p>(4) いくつでビンゴになるのかを確認する。</p> <p>(5) 「おはなしをよみながらビンゴ！」に挑戦する。</p> <p>(6) いくつビンゴができたか数える。</p> <p>(7) 友達とビンゴの数を比べる。</p> <p>(8) 選択内容を変えて、(5)～(7)を繰り返す。</p> <p>(9) 楽しかったことや分かったことを発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	8
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	ポッキーのびっくりピクニック		発 行 者 名	世界文化社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、仲間たちとピクニックに出掛け、次々出てくるびっくりする出来事を、仲間と力を合わせて乗り越えていく物語である。</p> <p>物語の最後では、途中で助けたあひるさんが、お礼にクッキーを持ってきてくれる。このクッキーは、こすると甘い香りがする「香料印刷ページ」となっており、ピクニックのわくわくした気持ちを高める仕掛けとなっている。</p> <p>動物や植物など、児童の身近にあるものが、色鮮やかに描かれており、身近なものへの興味関心を広げることができる。</p>				
対 象 学 年	小学部2年（重複学級）	障がい種別	視覚障がい	該当教科	生活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が3歳程度の弱視の児童である。両眼の視力は、0.1程度である。文字はまだ読めないが、絵本の読み聞かせを好み、絵を見て、話されているものを指差したり、簡単な動物の名前や色をいくつか話したりすることができる。</p> <p>本書を活用することで、自分の身の回りの生活や自然の特徴、身近にいる友達や先生との関わりに関心を持ち、みんなと一緒に活動することへの楽しさや期待感を高めてほしいと考える。</p> <p>また、戸外での学習や遠足など事前学習で、読み聞かせを聞き、楽しい活動だという見通しをもったり、クッキー作りの調理活動へのきっかけとなったりすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自由にページをめくり、興味のあるものを指差して教師に知らせたりしながら絵本を楽しむ。</p> <p>(2) 教師が指し示した登場人物の絵を見ながら、読み聞かせを聞く。</p> <p>(3) 丸太にまたがる、花を摘む、肩車をする、シャボン玉をする、つるを引っ張るなど、ページごとに印象的な動きに実際に取り組む。</p> <p>(4) 花、虫、動物の名前を復唱したり、ページ上から探し出したりする。</p> <p>(5) (3)～(4)を繰り返す。</p> <p>(6) 「クッキーの香りページ」を教師や友達と楽しむ。</p> <p>(7) 学級でクッキーを作り、みんなで食べる。</p> <p>(8) 絵本を再度読みながら、自分の作ったクッキーの香りと絵本の香りを比べる。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	9
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	かずのほん3 0から10までのたしざんひきざん		発 行 者 名	童心社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、0から10までの数のたし算、ひき算について、具体的な場面や物を用いて、学ぶことができる内容となっている。</p> <p>1つの計算を表すページには、りんごやペロペロキャンディなどの具体物の絵だけでなく、半具体物（タイル）で表した図、計算式も合わせて記されており、段階に応じて、学習を発展させていくことができる。</p>				
対 象 学 年	小学部2年	障 が い 種 別	知的障がい	該 当 教 科	算数
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達に5歳程度の児童である。1から10までの数を数えることができる。数の概念はまだ形成されていない段階であるが、好きなおもちゃの数を数えたり、お菓子の数と分ける友達の数を考えたりするなど数への新しい興味を持ち始めている。</p> <p>本書を活用することで、「一緒にするといくつか」、「残りはいくつか」ということの意味を理解し、実際の操作を通して、日常生活の中で使える力へとつなげたい。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 絵を見ながら、2～13ページの「いっしょにするといくつ？」の問いに対して、絵の中にある物を一緒に数えて、答える。</p> <p>(2) 同じ問いに対して、具体物を用いて、答えを考える。</p> <p>(3) 同じ問いに対して、半具体物（算数ブロック）を用いて、答えを考える。</p> <p>(4) ひき算、5以上のたし算・ひき算についても、(1)～(3)を繰り返す。</p> <p>(5) 日常生活の中で、靴、手袋、小石、給食のおかず等を数えて計算する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	10
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	きいてうたって24曲 どうよう うたのえほん		発 行 者 名	永岡書店	
図 書 の 内 容	<p>本書は、小学校学習指導要領（平成29年告示）音楽1・2年の共通教材も含む全24曲の歌とカラオケが流れる「うたのえほん」である。</p> <p>この24曲の中には、英語の曲も4曲収録されており、外国語に親しむこともできる。また、効果音ボタンもあり、楽しんで歌ったり、曲を聴いたりすることができる。</p>				
対 象 学 年	小学部5年（重複学級）	障 が い 種 別	病弱	該 当 教 科	音楽
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達に3歳程度の知的障がいの児童である。発語は少なく、慢性疾患により、就学前から入退院を繰り返している。家庭、病棟以外での生活経験が少ない。</p> <p>本書は、ボタンを押すと曲や音が流れる。これは、児童にとっても分かりやすく、主体的に学習に取り組むことが期待される。また、24曲も収録されており、児童が教師と一緒に楽しむことはもちろん、一人でも楽しむことができると考える。曲に合わせて、声を出したり、体を動かしたりしながら楽しむことで、生活の中の音にも興味をもつことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 24曲を順番に聴いてみる。</p> <p>(2) 好きな曲を選んで聴く。</p> <p>(3) 好きな曲に合わせて、効果音を鳴らしてみる。</p> <p>(4) 曲に合わせて声を出したり、体を動かしたりして楽しむ。</p> <p>(5) 歌の季節を考える。</p> <p>(6) 季節に合わせて曲を選択し、教師と一緒に聴いたり歌ったりして楽しむ。</p> <p>(7) 効果音を参考に、家庭や病棟で聞こえる音を録音し、生活の中の音集めをする。</p> <p>(8) 自分なりの音楽表現で楽しんだことや集めた音を発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	11
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	おやくそくえほん はじめての「よのなかルールブック」		発 行 者 名	日本図書センター	
図 書 の 内 容	<p>本書では、「子どもにこれだけは身につけてほしい！」という42の一生役立つ習慣を、「おやくそく」として取り上げている。</p> <p>一つ一つの「おやくそく」には、理由も合わせて紹介されており、理由を考え、納得しながら、約束を守ることについて、理解を深められる内容となっている。</p>				
対 象 学 年	小学部5年	障 が い 種 別	知的障がい	該 当 教 科	生 活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が6歳程度の児童である。身辺処理は、ほぼ自立しており、一人で着替えや持ち物の整理ができる。また、簡単な指示を聞いて動いたり、簡単な当番活動をしたりすることができる。だが、順番を待つことを嫌がったり、思い通りにいかないと怒ってしまったりして、きまりのある遊びに参加できないことがある。</p> <p>本書を活用することで、約束を守ることの大切さに気付かせたい。どうしてその約束を守らなければならないかを一緒に考えることで、様々な日常の場面においても、正しい行動を心掛けるようになることが期待される。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 1回に1エピソードの読み聞かせを聞く。</p> <p>(2) テーマ(例：ぬいだくつはそろえる)について、その理由を考える。</p> <p>(3) これまでに、同じような場面があったか、相手にしてもらって嬉しかったこと、嫌だったことについて振り返る。</p> <p>(4) おやくそくリストで、できたものをチェックする。</p> <p>(5) (2)～(5)を繰り返す。</p> <p>(6) おやくそくリストの中から、長期休業中に自分で取り組みたいものを選んで、目標にする。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	12
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	はじめてのなぜなにふしぎえほん	発 行 者 名	パイインターナショナル		
図 書 の 内 容	<p>本書は、空はどうして青いの？ 虹はどうしてできるの？ 等の日常の中で子どもが会う 70 以上の疑問を、文章とイラストで分かりやすく解説した図書である。身近な疑問は、「しぜん」→「いきもの」→「からだ」→「せいかつ」の順で紹介する構成となっている。</p> <p>質問や見出しは平仮名、説明文は小学2年生までに学習する漢字を使用し、すべてに振り仮名が付けられており、児童が一人で興味のある質問の説明を読み進めることができる。</p>				
対 象 学 年	小学部6年	障がい種別	知的障がい	該当教科	生活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達に6歳程度の児童である。平仮名の読み書きができる。言葉での指示を理解して行動することができ、友達や教師との関わり合いにも積極的である。様々なことに興味があり、テレビや大人との会話から情報を得て、「なぜ？ どうして？」という疑問もたくさんもっている。</p> <p>本書を活用することで、本児童の知りたいという意欲的な面をさらに伸ばしながら、正しい知識を身に付けていくことが期待できる。また、知りたいことを自分で調べ、そこで得た情報をまとめてみんなに知らせる学習へとつなげていきたい。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 目次から興味をもった項目や季節や行事に関連した項目を選ぶ。</p> <p>(2) 問い掛けに対して、答えを予想する。</p> <p>(3) 本書の答えを読んで、自分の予想と比べる。</p> <p>(4) 「のみものをいれたコップにはどうしてすいてきがつくの？」など、実験や観察が可能なものは、実際に取り組んで答えを確認する。</p> <p>(5) 学習中に、さらに疑問に思ったことは、後から、他の本やインターネットで調べるために、メモをする。</p> <p>(6) (5) でメモしたことについて、調べ学習を行い、絵と文章でまとめる。</p> <p>(7) まとめたものを、みんなの前で発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の () は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	13
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	はじめてのてんきえほん	発 行 者 名	パイインターナショナル		
図 書 の 内 容	<p>本書は、「くもってなあに?」「くもはどうしてできるの?」など、天気の不思議について楽しく学ぶことができる図書である。</p> <p>雲の種類によって、天気を予想したり、季節ごとの天気の様子を探ったりすることができる。また、雨、雪、台風など、私たちの生活の中でも肌で感じている天気について、分かりやすく解説している。さらに、世界の天気にも触れることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部2年(重複学級)	障がい種別	病弱	該当教科	理科
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、知的発達が9歳程度で、慢性疾患のため、長期入院をしている生徒である。病状により、屋外での経験が少ない。しかし、窓の外を眺めることが多く、天気の変化に関心をもっている。</p> <p>本書を活用して、日常的に触れることが難しい天気の変化について学ぶことができる。また、窓から見える雲の変化から天気を予想したり、本書で紹介されている簡単な実験を行ったりするなど、自然に親しみをもつことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 天気について疑問に思ったことを発表する。</p> <p>(2) 絵に注目しながら、教師と一緒に読む。</p> <p>(3) 一番関心をもった内容を発表する。</p> <p>(4) 病室から見える天気の変化について観察を行う。</p> <p>(5) 本書で紹介されている実験を行う。</p> <p>(6) 気付いたことをまとめ、発表する。</p> <p>(7) (4)については、朝の会の「今日の天気」で継続的に観察を行い、空の様子を写真を撮り、「じぶんだけのてんきえほん」を作成し、季節の変化を視覚的に捉える。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	14
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	1日10分でちずをおぼえる絵本 改訂版		発 行 者 名	白泉社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、47都道府県を「ふくろうのかたちはいわてけん」のように、形などから楽しく覚えることができる。</p> <p>県庁所在地や特産物、有名なものの紹介もされており、各都道府県の特徴を学ぶことができる。また、迷路や間違い探しなどのミニゲームがあり、親しみをもって学ぶことができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年(重複学級)	障 が い 種 別	肢体不自由	該 当 教 科	社会
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、肢体不自由と知的障がいを併せ有している。ウォーカーを使つての歩行が可能だが、車椅子で生活する時間の方が長い。様々なことに興味はあるものの、学校以外に出掛けることはほとんどない。</p> <p>小学部6年生で修学旅行に行つてから、宮城県に興味をもち、特産物などを調べたり、実際に食べたりしたことが楽しかった思い出として残っている。</p> <p>この経験から、他の都道府県にも興味をもち、自分の暮らしている地域との違いを見付けるなど、社会的事象に関心をもつことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自分の住んでいる地方や都道府県を見付ける。</p> <p>(2) 行ったことがある都道府県を見付ける。</p> <p>(3) (1)と(2)の都道府県の違いを見付ける。</p> <p>(4) 他の都道府県のページも見たり読んだりする。</p> <p>(5) 初めて知つた特産物は、スーパーマーケットに行つて調べたり、実際に食べたりする。また、有名なものについては、各県のウェブサイト調べなどし、より親しみをもつ。</p> <p>(6) ミニゲームに挑戦する。</p> <p>(7) 「おさらいにほんちず」のページを見て、都道府県が言えるか挑戦する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	15
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	つつつつつー なぞってたどって ゆびあそぶっく		発 行 者 名	ひかりのくに	
図 書 の 内 容	<p>本書は、カラフルな絵とリズムカルな言葉で構成されており、その言葉に合わせて指で絵を触ったり押したりしながら、読むことができる内容となっている。一つの絵が、見開きページに描かれており、左から右になぞりやすい作りになっている。</p>				
対 象 学 年	小学部1年(重複学級)	障 が い 種 別	視 覚 障 が い	該 当 教 科	国 語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達に2歳程度の盲児である。</p> <p>自分の持ち物や身の回りにあるものについて、触って確認しようとする気持ちが育ってきている。また、身近なものについて、その名前や使い方についても、少しずつ理解が広がってきている。</p> <p>本書は、擬態語を、実際に指を動かしながら体感することができ、言葉と動きのイメージを一致させることが期待できる。また、線をたどる指先の動きを習得することで、将来的に、指先を使って情報を得ることや点字を使った学習へとつなげていくことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自由にページを開き、突起に気付き、触る。</p> <p>(2) 教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>(3) ページごとの動きを表す言葉(つつつつつーなど)を聞きながら、線を教師と一緒にたどる。</p> <p>(4) ページごとの動きを表す言葉(つつつつつーなど)を言いながら、線をたどる。</p> <p>(5) 動きを表す言葉を聞いて、その動きを手掛かりのない状況で再現する。</p> <p>(6) 本書に出てくる12種類の言葉ごとに、(3)～(6)を繰り返す。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	16
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	絵で見てわかる 単位とはかりかた		発 行 者 名	ひさかたチャイルド	
図 書 の 内 容	<p>本書は、センチメートル・グラム・デシリットル・リットルなど、日常生活で使う様々な単位と、そのはかり方を子どもたちにも分かりやすいイラストで表している。また、ページごとにめくる小窓や外すことのできる仕掛けが150か所あり、めくる操作をしながら、どんどん読み進めていくことができる。めくる仕掛けとカラフルなイラストにより、楽しみながら学習を進めることができる。体重測定で身長や体重を測ったり、友達と比べたりするなど、センチメートルやキログラムは身近な単位である。他にはどのような単位があるのか、知識の広がりも期待できる。</p>				
対 象 学 年	中学部1年(重複学級)	障がい種別	聴覚障がい	該当教科	数学
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、聴覚障がいがあり、知的発達が8歳程度の生徒である。聴力は左右ともに90dBであり、補聴器を付けていると大人がゆっくり大きな声で話す言葉を聞き取ることができる。身辺自立はほぼ確立しており、いろいろなことに挑戦しようとするが増えてきている。また、料理に興味があり、調理実習の際は、積極的に活動に参加し、次に作ってみたいものを自分から伝えることもできる。興味のある調理活動に欠かせない質量や時間の簡単な単位から学習することで、単位を覚えると便利であることに気付き、他の単位などへの学習意欲の高まりが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自由に、小窓を開けながら一人で読んで楽しむ。 (2) 過去の調理実習の際に出てきた単位について思い出す。 (3) 「質量をはかろう」を読んで、グラムとキログラムについて確認する。 (4) 「時間」を読んで、秒、分、時について確認する。 (5) 簡単な調理を計画し、食材や調味料を実際に量って準備する。 (6) 実際の調理工程でその都度必要な「時間」を計りながら調理活動を行う。 (7) 調理でどのような単位を使って、学んだことをどのように活用したかをプリントにまとめる。 (8) 他の単位についても、(4)～(7)を例とし、体験場면을盛り込みながら学習を進める。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	17
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	やっぱり・しごとば		発 行 者 名	ブロンズ新社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、既務員、プロサッカー選手、恐竜学者、プログラマー、探検家、オーケストラ団員、料理研究家、吹きガラス職人、医師など、普段目にしていない職業から、普段目にする事のない特殊な仕事まで、幅広い9つの職業が紹介されている。一つの職業に対し、まず見開き2ページで仕事をする様子が迫力ある構図で描かれており、付随する道具などの名称が一つ一つに表示されている。次の見開き2ページなどには、仕事内容や道具の説明、一日の仕事の流れが丁寧に描かれている。すべてに振り仮名が振ってあり、読みやすいため、リアリティーのあるイラストでイメージを膨らませながら、一人で読み進めることができる。将来の進路を考える上で、参考になる1冊である。</p>				
対 象 学 年	中学部2年(重複学級)	障がい種別	聴覚障がい	該当教科	職業・家庭
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本生徒は聴覚障がいがあり、知的発達10歳程度である。聴力は左右とも90dBであり、補聴器を使いながら相手がゆっくり大きな声で話すことで聞き取ることができる。日常生活動作はほぼ自立しており、学校での係活動などの役割に対し、責任をもってやり遂げたり、家庭では、簡単な調理に取り組んだりするなど、生活の営みに関して基礎的な力は身に付いていると思われる。</p> <p>本書は、未知の職業への関心を高める内容となっており、気になった職業についてプリントにまとめたりする中で、自分が将来就きたい職業についても考えるきっかけになることが期待できる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) 本書を教師と読む。 (2) 本書の中から、気になった職業を選び、もう一度一人で読む。 (3) 気になった職業と、なぜ気になったのかを発表する。 (4) 自分の回りの「働いている人」について考え、誰がどのような職業についているのか本書の項目に沿って取材し、プリントにまとめる。 (5) プリントにまとめたことを発表し合う。 (6) 自分が就きたい職業について考える。 (7) 自分が就きたい職業を目標とした簡単な年表を作成する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	18
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	旅でみる 世の中のしくみ大図鑑		発 行 者 名	ポプラ社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、子どもたちの身の回りの物やサービスが手元に届くまでの流れを、20の旅に例えて紹介する図書である。「スーパーのバナナやチョコレートはどこからきたのか?」「ネットショッピングやGPSのしくみとは?」絵を眺めるだけで世の中がどのようにして回っているのか、その流れを体感することができる。普段は目に見えない流れを知ること、日々の生活がいろいろな人や物の流れに支えられていることを実感し、想像するきっかけとなる。</p>				
対 象 学 年	中学部3年(重複学級)	障がい種別	聴覚障がい	該当教科	社会
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、聴覚障がいがあり、聴力は左右とも95dBである。軽度の知的障がいを併せ有しており、小学校高学年の学習を行っている。最近、身近な知識を得るテレビ番組に関心を持ち始め、友達と話題にする様子もみられる。</p> <p>自分の身近なものが、どのように手元に届いているのかを、順を追ってイラストや文章でまとめられている本書を教師と一緒に読むことで、いろいろな人や物が関わっていることを知り、社会の仕組みへの関心がさらに高まることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 6～7ページの「想像してみよう」を教師と一緒に読む。</p> <p>(2) 自分の身の回りで「これはどこから来たのかな?」と思っていることを発表する。</p> <p>(3) 「身のまわりのものの旅20」の中から、興味のある項目を選ぶ。</p> <p>(4) 選んだ項目のページを、教師と一緒に数字に沿って読む。</p> <p>(5) 知っていたことや初めて分かったこと、感想などを簡単なプリントにまとめる。</p> <p>(6) 関心のある項目について、(4)～(5)を繰り返す。</p> <p>(7) その他に調べてみたいことについて、それがどのような旅をしているのかを想像する際に本書を活用する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	19
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名		こころりん123		発 行 者 名		ほるぷ出版					
図 書 の 内 容		<p>本書は、左のページは形を指でなぞって、右ページはこころりんをころがして、視覚・触覚・聴覚のすべてに働き掛けながら、1から9までの数字を楽しんで覚えることができる。子どもが好きな優しい色合いであり、なぞる数字の部分は凹になっているためなぞりやすく、こころりんを転がしながらなぞる数字の部分はくるくるまわる手触りを楽しみながら学習することができる。「こころりん」という本の題名とともに、近くにあると、思わず手に取りたくなる親しみやすい図書である。</p>									
対 象 学 年		小学部2年		障がい種別		知的障がい		該当教科		算数	
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が3歳程度の知的障がいの児童である。身辺自立がまだ確立できておらず、日常生活において、支援を多く必要としている。数の概念はまだはっきりしていないが、朝の会の司会や授業の始まりの挨拶など、数字に触れる際は、教師と一緒に指でも表現しながら進めており、「1」など、簡単な数字は、自分でもやろうとする様子がみられ、数への関心が芽生えてきている。</p> <p>本書は、わっかに目がついているなど、親しみやすく、触れているだけでも楽しむことができる。「こころりん」と教師と一緒に声を掛けることで、楽しく学習に取り組むことが期待できる。</p>									
	指 導 の 概 略	<p>(1) 絵本を自由に見たり、操作したりする。 (2) 教師と一緒にページをめくり、読み聞かせを聞く。 (3) 教師が、1と2をなぞり、3は、わっかに指を入れて転がすのを見る。 (4) 1と2をなぞり、3は、わっかに指を入れて転がしてみる。 (5) 4をなぞり、5は、わっかに指を入れて転がす。 (6) 6をなぞり、7は、わっかに指を入れて転がす。 (7) 8をなぞり、9は、わっかに指を入れて転がす。 (8) (4)～(7)を繰り返す。 (9) 朝の会の司会などで、次第の数字を指さしながら当番活動を行う。</p>									

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	20
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	さくらがさくと	発 行 者 名	福音館書店		
図 書 の 内 容	<p>本書は、桜が咲き始める頃から満開となり、散ってゆくまでの1か月が丁寧に描かれている。日本人にとって「さくらの開花」は一大行事であり、桜の木は、学校には必ず存在するといってもいいほど、子どもたちにとって身近な樹木である。本書は、横に長く広がった画面を贅沢に使い、桜の木に訪れる変化を丁寧に描き出しながら、日常を過ごす人々と自然との関わり合いの物語も味わうことができる。また、「科学絵本」の枠におさまりきれない美しさがあり、本編だけではなく、装丁など、全体を通して使われている上品な「さくら色」も子どもたちに味わわせることができる。身近な自然への関心が高まり、観察する際の視点が広がる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部6年	障がい種別	知的障がい	該当教科	生活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が5歳程度の知的障がいの児童である。日常生活では、簡単な言葉での指示を理解して行動することができ、部分的に支援を必要としているが、身の回りのことを一人で行うことができる。簡単な発語もあり、言葉での簡単なやり取りができる。</p> <p>本書は、身近な自然への関心を高めるだけでなく、「スズメ」「さくらまつり」「ちょうちん」「たこやき」「チョコバナナ」など、身近な言葉にも触れることができ、言葉の広がりも期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 4月初旬の冬が終わった後の学校周辺の自然を観察する。</p> <p>(2) 学校周辺にある開花前の桜の木を見付け、気が付いたことを発表し合い、写真を貼って観察日記を作成する。</p> <p>(3) 本書を教師と一緒に読む。</p> <p>(4) つぼみとなった桜の木を観察し、気が付いたことを発表し合い、写真を貼って観察日記を作成する。</p> <p>(5) 開花した桜の木の下でお花見をし、桜の絵を描いて観察日記を作成する。</p> <p>(6) 年間を通して、桜の木を観察し、観察後に一人で本書を読んで比べてみる。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。